

歯の治療といえば歯科医、歯医者さんでも、歯の健康を守っているのは、歯医者さんだけではありません。そこには、歯科衛生士とともに歯医者さんの片腕となつて活躍する歯科医療の技術専門職「歯科技工士」の存在があります。

○歯科技工士とは

虫歯などが原因で欠けてしまつたり、喪つてしまつた歯の治療には、さし歯や入れ歯など、人工の歯、義歯が使われます。この義歯を歯医者さんの指示書に従つてつくっているのが歯科技工士です。歯にかわる「第2の歯」をつくる仕事。歯医者さんと息のあつた連携で全身の健康とも密接に結びついているみなさんの大切な歯を守る仕事。まさに責任は重大です。

(答え)

「歯科技工士」です。



超高齢化社会に向けて、ますます重要となる仕事です。

いつまでも元気な歯で、おいしく食事をした。それは、私たち共通の願いです。しかし残念ながら、歯は年齢とともに衰えていきます。50歳代では8人に7人までが、また70歳以上ではほとんどの人が数本からすべての歯を喪つているというのが現状です。そんな中で、快適な食生活を送っていくためには、自分の歯にかわる歯(義歯)をつくる歯科技工技術の手助けがどうしても必要となります。おりしも日本の社会は、高齢化の真っ只中。2020年には、4人に1人が65歳以上の高齢者になることが予測されています。「超高齢化社会」の到来に向けて、歯科技工士の果たす役割はますます重要となつていくのです。

「こころ」を歩み進歩している

現代の歯科技工技術

このように快適な食生活のために不可欠な歯科技工技術。しかし、歯科技工士は歯医者さんのように直に患者さんと接することがないため、まだまだ歯科技工技術について正しい理解をいただけていないのが現状のようです。

歯科医療業界、特に歯科技工分野の技術革新にはめざましいものがあります。現在は歯ならびや歯の型、歯の色など、審美的な欲求から歯の治療をされる人も多く、そうした要望におこたえるためにも新しい素材や技術の開発が活発に進められています。以前のように「かめはばい」といつ時代から一人ひとりにフィットする美しい義歯が提供できる時代へ、歯科技工技術は確実に進歩を続けていくのです。

歯科技工士をとりまくさまざまな問題

歯科技工士は、高卒以上で厚生大臣の指定する歯科技工士養成所もしくは文部大臣の指定する歯科技工士学校を卒業し、国家試験に合格し、厚生大臣の免許を受けなければなりません。その後は、大半の人が歯科診療所(歯科医院)や歯科技工所に就職。経験を積み重ねながら、一人前の歯科技工士へと成長していきます。

たしかに知識と技術を持つ日本の歯科技工士の技術レベルは世界でもトップクラスであり、高い評価を受けています。にもかかわらず、歯科技工報酬が社会保険制度の中に位置づけられていない現状が示す通り、その社会的評価は低く、長時間労働を強いられる過酷な労働環境を生み出す原因となつていきます。また、収入もけつして高いとはいえませんが、一般よりむしろ低い水準にあります。こうした状況がきっかけに世界に誇る日本の歯科技工技術を支える優秀な人材が他業種へと流出してしまふ恐れがあります。そうした事態を招かないためにも、皆様に歯科技工士の役割をご理解いただき、よりよい歯の健康をご提供できる環境づくりをしてみたいと考えています。

歯科技工士の現状をもっともっと知ってください

この他にも、またまたお伝えしなければならぬことはたくさんあります。日本歯科技工士会では、健康で快適な食生活を担う歯科技工技術の発展のため、さまざまな形で歯科技工士の現状についてご紹介してまいります。今後の活動にぜひ注目ください。

社団法人 日本歯科技工士会

〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町21-5
TEL.(03)3267-8681(代) FAX.(03)3267-8650
ホームページ:<http://www.nichigi.or.jp>
E-メール: nichigi@info.email.ne.jp

..... ご存じですか、歯科技工士

私は
歯科医です。

私は
歯科医では
ありません。

力をあわせて
歯の健康を守っています。

さて、
私は誰でしょう？